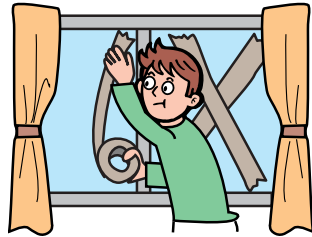




集中豪雨や台風などに備えるために!!

雨戸・屋根の補強

雨戸の破損や瓦のひびわれなどは補強しておきましょう。アンテナや看板などの固定も確認しておきましょう。



家のまわりの点検

飛ばされそうなものは、家に入れるか固定しておきましょう。ガスボンベ、鉢植え、物干し竿に注意!

側溝の詰まりなど、家のまわりの水はけを良くしましょう。

地域ぐるみで取り組むことが大切です。

雨どいや排水口の点検

雨どいやベランダの排水口にたまった落ち葉などは、取り除いておきましょう。



家財道具を安全な場所へ

浸水が心配されるときには、あらかじめ大切な家財道具は、2階などの安全な場所に移しておきましょう。



都市型水害に気をつけよう

都市部では、地表面のほとんどが、アスファルトやコンクリートで覆われているため、雨水の大半が下水道や側溝に集中します。このため短い集中豪雨でも水害が発生することがあります。また、地下室にはん濫した水が流れ込み被害が出ることもあります。

水量が急速に増えるので、土のうなどを積んで浸水防止するなど早めの対処が必要です。

大雨の時には、下水の処理能力を高めるため、洗濯や風呂の排水を一時控えるなどの協力をお願いします。



簡単な土のうの作り方

ごみ袋を利用

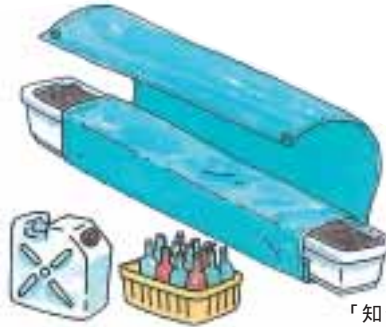
40リットル用程度のごみ袋などを二重にして中に半分程度の水(風呂の残り水など)を入れ、すき間なく並べる。

段ボール箱に入れば強度が増し、積み重ねることもできます。



シートを利用

土を入れたプランターを横に並べ、レジヤシートを巻き込んで補強する。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



「知って防ごう風水害」(東京法規出版)より引用

地下空間があぶない!

豪雨の時は、地下室は危険です。浸水の危険がある時は、早めに避難しましょう。



地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。



浸水すると電灯が消えます。エレベーターは使えません。



地下室では外の様子がわかりません。



水圧でドアは開かなくなります。



被災後の安全点検

台風や豪雨が去った後には、いろいろな危険が潜んでいます。地域ぐるみで安全に復旧しましょう。

断線した電線があれば、電力会社に連絡し取り除いてもらいましょう。

子供が近寄らないように十分注意しましょう。

水害を受けたら手の消毒を忘れないなど衛生に注意しましょう。

活動時には、けがをしないよう長袖を着用、落下物に備え、できればヘルメットを着用しましょう。

落下や倒壊のおそれのある危険なものはないか確認しあればただちに補強や除去しておきましょう。

